

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	エイド		
○保護者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2025年1月1日		～ 2025年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多目的ホール、園庭(畑)、調理室など、施設が充実して利点を生かし、様々な活動を実施することが可能となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ◆多目的ホール:レクリエーション大会、感覚統合、集団活動など、身体を動かす活動を充実させている。 ◆園庭:自転車練習、砂場遊び、野菜栽培等、室内では難しい活動を充実させている。 ◆調理室:昼食作り、おやつ作りなどを通じて、食育を充実させている。 	子ども達、保護者様からの要望を踏まえ上で、活動の内容をより充実させていきます。また、現在、実施しているプログラムについても、ブラッシュアップを行うことで、より充実した内容に昇華させます。
2	様々な活動を通じて、日常生活で必要となる生活力が涵養されるようにしている。また、幅広い年齢層と一緒に生活しているため、相互に尊重し合える環境となっている。	クッキングや掃除など日常生活に直結する生活力をもちろんのこと、その他、各活動には「めあて」を設定して取り組んでいる。また、幅広い年齢層と一緒に生活している利点を活かして、各々の得手不得手を補いあえるようにしている。	個々人の特性や状態を理解したうえで、子どもが「参加したい」と思えるような活動を取り入れていきます。今後は個々人の特性や状況を踏まえて、活動を細分化し、みんなが無理なく参加できるようにしていきます。
3	系列施設合同で、「お餅つき大会」「バス遠足」などを実施することで、普段交流のない子ども同士の交流の場を提供できている。また、「運動会」「夏祭り」などご家族様にも一緒に参加していただき、ご家族様同士、ご家族様と職員の交流の場が提供できている。	利用している子ども達だけでなく、そのご家族様にも楽しんでいただける行事を取り入れています。こうした交流を通じて、普段からご家族様と事業所が気軽に繋がれるようにしています。	ご家族様からの提案・要望を踏まえながら、行事内容を含め、今後もブラッシュアップしていきます。また、こうした大掛かりな行事では、普段との環境の変化に弱い子どもがいることにも配慮しながら、引き続き実施していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設が充実している利点がある反面、子ども達の活動場所が分散してしまうと、見守る際に死角を生み出してしまう可能性がある。	活動場所(特に自由遊び時間など)が分散した際に、職員間で臨機応変に対応するスキルに差がある。また、活動場所を制限するなど、基本的な安全姿勢に対する意識が不足している。	場面に応じて活動場所を制限するなど、安全管理を徹底したうえで、空間(施設・設備)を有効活用する。また、死角を生み出さないように、職員間の連携を強化し、安全確保に努めます。
2	様々な子どもと一緒に生活していることで、子どもの同士の相性・お互いの特性により、ストレスとなっている場面がある。	個々人の子どもの特性・相性を十分に理解できていない。環境設定についてPDCAが十分に行われておらず、ストレスを増幅させている可能性がある。職員のスキル不足が1つの要因である。	場面による生活空間を分ける、クールダウンのスペースの活用など、物理的な環境設定をPDCAを通じて再構築していきます。また、研修、事例検討を通じて職員個人のスキルを向上させることで、よりよい支援を行えるようにしていきます。
3	ご家族様からのニーズに満足に答えることができていない。	ご家族様とのコミュニケーションについて、職員側から積極的に行えていない。また、関係性について、ご家族により濃淡がある。職員の傾聴スキルが不十分であり、ご満足いただける対応となっていない。 ご家族様との窓口が特定の職員に固定されている。	固定された職員だけでなく、職員間での情報提供を行い、すべての職員が、対応できるようにしていきます。また、研修等を通じて、職員個人のスキル向上を図ります。お子様、ご家族様に寄り添う姿勢を再度、徹底していきます。